

来るべき

災害シーズンに備えて!

6月7日住民参加で防災訓練



地震・雷・火事・親父——これは昔から伝えられてきた恐いもの。の序列ですが、この他に台風・豪雨（洪水・山崩れ・高潮（津波））があります。災害は忘れた頃にやってくる、といひます。

今年も南国市は夏の災害シーズンを前に、防災体制を強化し、市民生活の安全を守るために、五月十五日に防災会議を開き、次のように災害対策要項を決定しました。主なものをあげてみますと、

■災害対策本部の設置
市役所内企画財政課に置く。電話③2111（内線433）

■救済活動の実施
災害の状況が規模になった場合は、市議会はちろん県庁、その出先機関、電報電話局、国鉄、それに四国電力、市内の病院など民間の機関にも応援を求め救済活動が実施されます。

■県計画による防災週間の行事
今年も、昨年の五号台風による仁淀川流域の大災害を教訓とし、それを想定し、六月一日から七日

** 訓練実施計画表 6月7日午前9時～10時 **

災害の想定	消防分団名	訓練実施地区	一時避難場所
1. 地震による避難 午前8時50分震度6の烈震があり、市内のビル及び民家が相当数倒壊した、西町では、火災も発生した。	後免分団	後免町	土曜市広場
	南海分団	小久保部落	芦ヶ谷公民館
2. 高潮による避難 南海沖で海底地震があり津波が発生し、防潮堤が決壊した。同時に下田川の潮位が異常に高くなった。	琴平分団	八松部落	八松公民館
	大湊分団	久枝部落	久枝公民館
3. 堤防決壊による避難 台風による豪雨のため物部川及び国分川の堤防が決壊した。	日章分団	中須・土居・茨西部	農協物部出張所
	香南分団	上唾内部落	上唾内公民館
	東部分団	西島部落	西島公民館
4. 山崩れによる避難 台風5号は、北上し7日未明中村市に上陸した模様。県の中東部では既に300～400mmの雨が降り、河川は増水各地で山崩れが発生しているが、依然として雨雲は厚く、今後の雨量は山間部で200～400mmに達する見込み。	大篠分団	南海学園	運動場
	西部分団	希望の家 老人ホーム	広場
	岡豊分団	滝本部落	滝本公民館
	北部分団	亀岩部落	坂本延男氏車庫 坂本岩農
	上倉分団	白木谷部落 白木谷	白木谷公民館

までの一週間は防災週間とし、次の週行事を計画しました。（南国市関係のみ）

▽ポスターの掲示▽危険地区の再検討と避難場所の選定（一時的避難）▽正確な気象情報の把握▽非常無線通信の利用▽市町村訓練（六月七日全市町村一斉に）となつています。

以上にもとづき、六月七日（月）午前九時から十時までの一時間、次表のように、消防分団の指導により避難訓練を実施します。地域住民のみならずの積極的な参加とご協力をお願いします。

災害に備える品物

災害におそわれて壊滅状態になつたら、とにかく救援が始まるまでの間は自力でのがなければなりません。二三日の間はしほの最少限の物を用意しておきましょう。次のような災害に備える品物の他に、我が家の状態に合わせ、必要なものをリュックサックや非常持ち出し袋にまとめて用意しておきましょう。

☆トランジスタラジオ（電池はきれいでいせんか）

☆懐中電灯・ローソク・マッチ
☆インスタント食品（ラーメンなど）、缶詰、ビスケット、カンパン
☆防災頭巾、ヘルメット、タオル、手袋、ナイフ、缶切り、細ひも
☆下着、くつ下、毛布、レインコート、広いビニール布
☆粉ミルク（赤ちゃんがいる家庭は忘れないように）、飲料水（アルミの水とうに入れておくと便利）
☆救急袋（持病の人の薬やバンドーコーなど）

☆現金、預金通帳、印鑑

※災害に備える品物は自分にあつた重さで用意しておきましょう。

午後1時から岡豊橋で消防訓練が行われます。

小選挙戦の市議選、新人12人が全員当選という現職にきびしい市民の審判。(昭50・10・13) 6

増える!! 児童のむし歯 市内小学校調査報告より

家庭での子供の歯みがき習慣はできていますか。子供たちのむし歯予防のために家庭で実行できるものとしては、むし歯の原因となる甘いものをできるだけ与えないこと、食べたらすぐ歯をみがく習慣をつけることです。子供の歯みがき習慣を急いで毎日の歯みがきの習慣をつ

けることはできません。甘いものへの注意と同じ様に、歯をみがく習慣も小さい時からつけることが大切です。

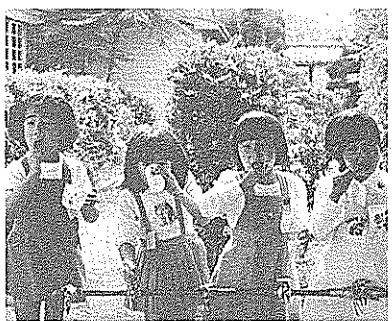
しかし、子供だけに歯をみがくことを強制しても効果はありません。家族みんなが食後に歯をみがくようにしましょう。小さい子供の場合は、みがき方にこだわらず、

六月四日は「むし歯予防デー」ですが、このほど昭和五十年度南国市内児童の永久歯にかかるむし歯の状況調査がまとまりました。

これは昨年春、市内十四の小学校児童三〇三三名（男子一六二二名、女子一四一一名）について検査したもので、毎年児童にかかる歯の病気のうち最も高いむし歯の実態を知るとともに現状での問題点をみだし、過去の調査結果とも比べ今後のむし歯予防対策への手がかりとするものです。

これによると、小学生における永久歯のむし歯の状況では、図Iのように、全体の七五・八割にあたる二九八名がむし歯にかかっており、四十六年以降減少の傾向にあったものが昨年度に比べ高くなつています。

また、学年別と男女別では、一年生から四年生まで学年が進むにつれてむし歯にかかる者が急激に



増えており、特に一年生から二年生の間の増加が多くなっています。学年が進むにつれむし歯も増えており、最終学年の六年生のむし歯のある者の割合が、平均九五・六割、また一人当りのむし歯の数は四・九本という結果がでています。それに女子が男子を上回つており

みがく回数を多くして、簡単なみがき方から始めさせましょう。そして、みがいた後、お口の中をのぞいて、みがけていないところがあればみがけるようにならるまで教えてあげてください。

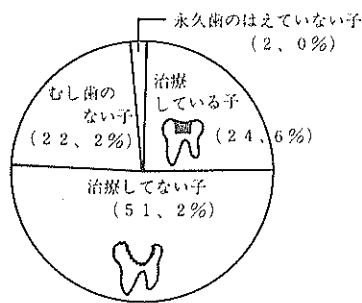


くなつていますが、未処置歯総数では四五・五割となり、昨年度よりも未処置のむし歯が増えていました。

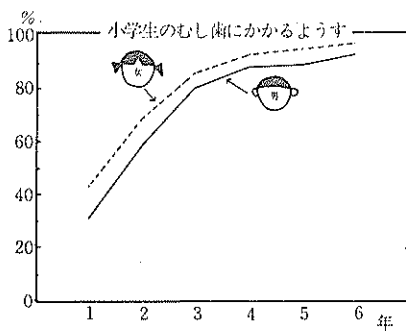
この他に参考調査として、昭和四十五年入学児童が六年生として入学した児童が六年生になるまでの六年間のむし歯にかかるようすを調べたもので、図IIでは、女子は男子よりもむし歯にかかる者が多く、男女ともに高学年になるほど高率となる、という結果を表わしています。

また、一人当りのむし歯の数では、一年生の時〇・七本だったものが、最終学年の六年生では約七倍の四・八本となるなど、前記の調査と似たような傾向を示しています。

図I



図II



最後に、二つの調査によると、児童のむし歯予防対策は特定の期間（ある一定の学年）だけでなく歯がはえたらなるべく早く行うことが必要であり、そのためにも定期的な歯科検診や衛生指導・予防処置等を低学年より継続して行う必要がある、と結んでいます。